

細菌性赤痢

感染症法：3類感染症，4種病原体

猿・・・獣医師の届出義務

食品衛生法：食中毒病因物質

3類感染症：危険性は高くないが，特定の職業への就業によって
感染症の集団発生を起こし得る感染症

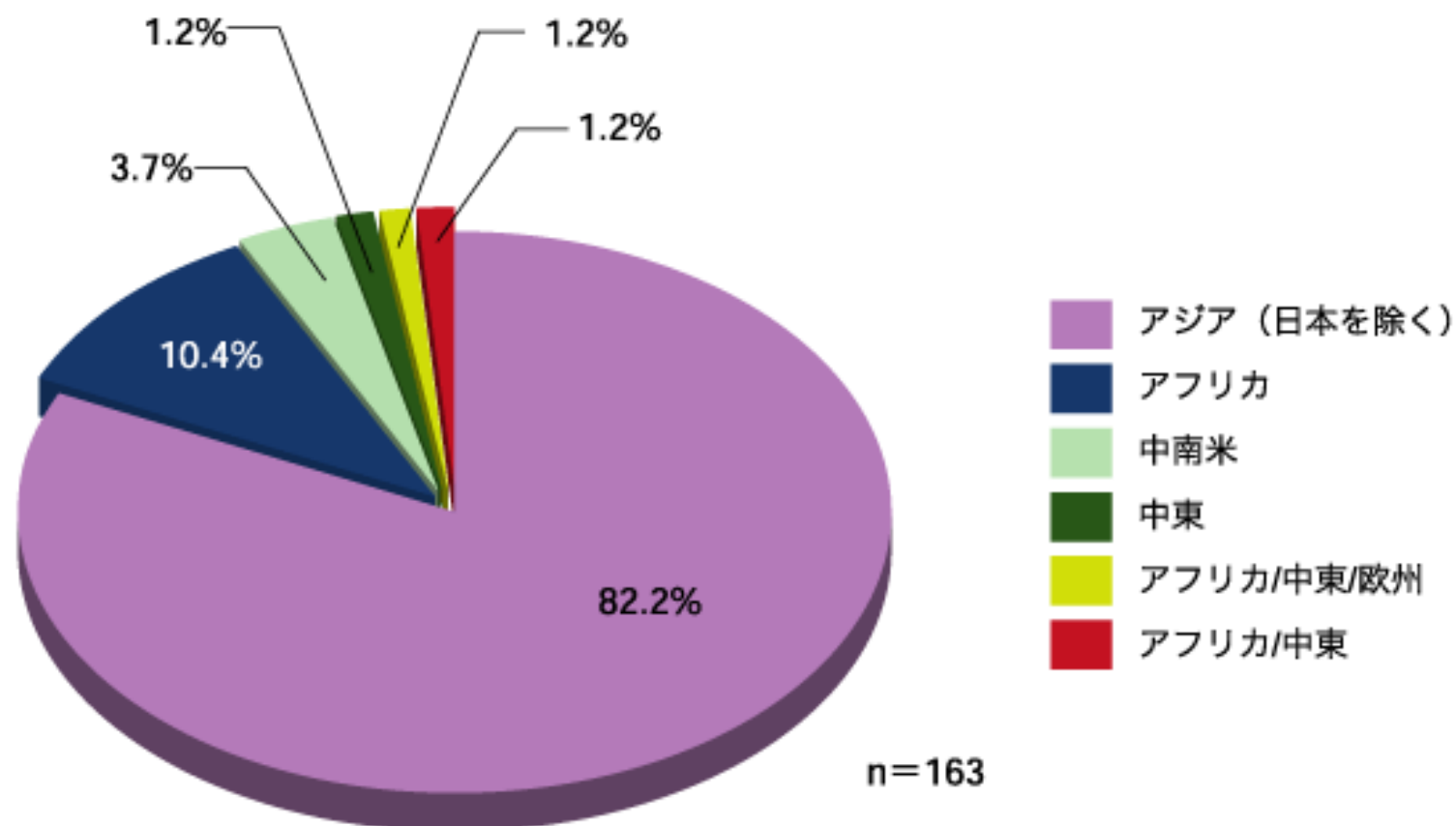
病原菌検出状況(成田空港検疫所)

年	検便 件数	菌検出 者数	コレラ菌	赤痢菌	チフス菌 パラチフス菌	その他＊
平成10年	6,017	1,156	4	143	0	1,124
平成11年	2,322	488	5	83	1	465
平成12年	1,914	364	0	89	0	326
平成13年	2,458	529	1	92	0	541
平成14年	3,900	852	3	80	1	978
平成15年	3,323	621	3	81	0	648
平成16年	4,441	818	12	78	0	918
平成17年	4,937	987	3	61	0	1,126
平成18年	3,107	733	2	51	0	680
平成19年	1,181	266	1	31	0	234

その他＊食中毒菌

国別赤痢菌検出状況（成田空港；平成8～20年）

図5. 細菌性赤痢の国外感染例の感染地域分布（2010年）



国内の細菌性赤痢発生状況

年次	食中毒	感染症
平成18年	1	490
平成19年	0	452
平成20年	3	320
平成21年	0	181
平成22年	1	235
平成23年	52	300
平成24年	0	214
平成25年	0	143
平成26年	0	158
平成27年	0	156
平成28年	0	121

病原体

1898年(明治31年) 志賀潔により発見
される

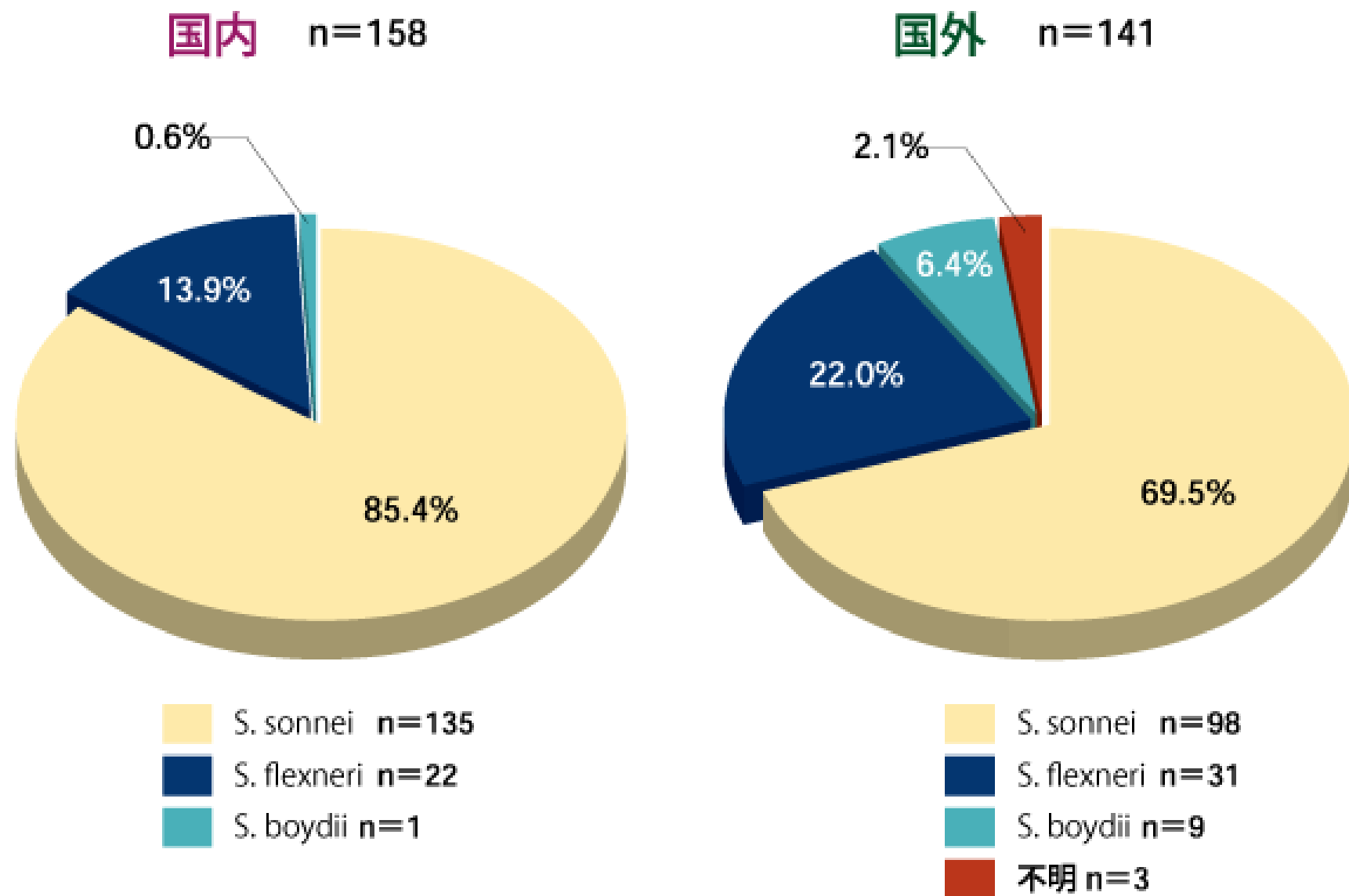
腸内細菌科, グラム陰性非運動性,
無芽胞小桿菌, 大腸菌と近縁



群	種	血清型	病原性
A	<i>Shigella dysenteriae</i>	1～15	+++
B	<i>Shigella flexneri</i>	1～6, X, Y	++
C	<i>Shigella boydii</i>	1～19	++
D	<i>Shigella sonnei</i>	1	+

S. dysenteriae 血清型1はShigatoxinを産生

図4. 細菌性赤痢の感染地域別にみた菌種割合(2011年)

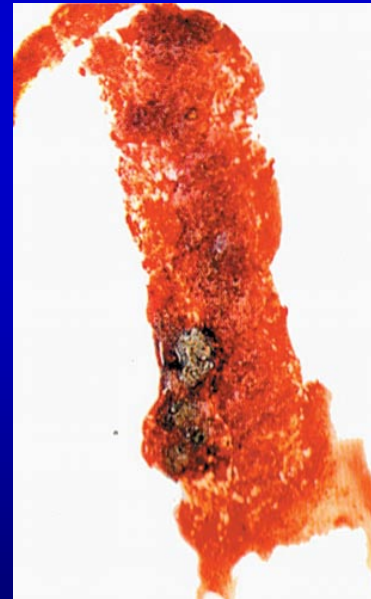


細菌性赤痢の人の症状

潜伏期: 1～5日, 人では10個程度でも感染。
全身倦怠感, 悪寒を伴う急激な発熱で発症し, 発熱が
1～2日続いた後, 水様性下痢, 腹痛, しぶり腹, 膿粘
血便などのいわゆる赤痢症状が出現。



赤痢患者の便



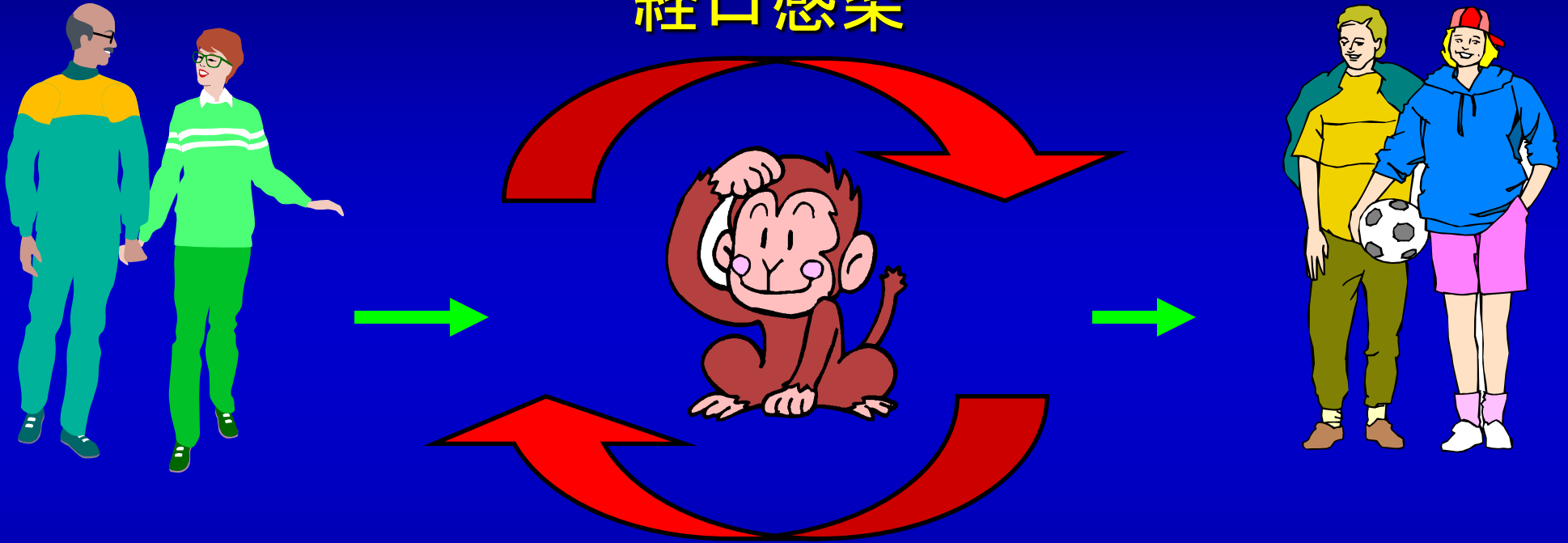
猿の細菌性赤痢の特徴

- 猿も少数の菌で感染する。
- 無症状で保菌している個体が多い。
- 発症個体は人と同様な症状を示す（潜伏期2～9日）。
- 類人猿やカニクイザル, アカゲザルなどの旧世界猿での報告が多い。タマリン, リスザルなどの新世界猿や原猿類では少ない。
- 捕獲直後の野生個体では赤痢菌は分離されない。



細菌性赤痢の感染経路

経口感染



多くの猿は人から感染し、また、猿が感染源になる。

リファンピシン, クロラムフェニコール, ホスホマイシン,
アンピシリンなど(例: ホスホマイシン: 200mg/日, 3日)

享月

1974年当時の猿輸入頭数:1万5千頭
うちペット用:約1万頭

ペットの猿由来細菌性赤痢の事例(1993年)

アフリカ産ハナジログエノン2頭とその飼育者，家族3名および来訪者1名が細菌性赤痢に感染した。猿および飼育ケージ，各患者から同一血清型のB群赤痢菌 (*S. flexneri* 3a) が分離された。



霊長目・オナガザル科

猿の細菌性赤痢届出状況

年	届出件数
2008(平成20)年	29
2009(平成21)年	34
2010(平成22)年	59
2011(平成23)年	37
2012(平成24)年	2
2013(平成25)年	5
2014(平成26)年	6
2015(平成27)年	6
2016(平成28)年	5

細菌性赤痢の猿の届出頭数(輸入国別)

輸入国	輸入頭数
中国	48
フィリピン	24
南ベトナム	22
インドネシア	4
不明	1
計	99

(2004年10月1日～ 2007年5月27日)

細菌性赤痢の届出頭数(猿の種別)



アカゲザル

<http://www.pref.kyoto.jp/koho/dayori/200308/furusato.html>

猿の種類	頭数
カニクイザル	88
アカゲザル	11
計	99



カニクイザル

<http://www.pri.kyoto-u.ac.jp/shinka/keitou/pho/pages/b-4.htm>

(2004年10月1日～2007年5月27日)

猿から分離された赤痢菌種

群	菌種	株数
B群	<i>Shigella flexneri</i>	93
C群	<i>Shigella boydii</i>	3
A群	<i>Shigella dysenteriae</i>	2
D群	<i>Shigella sonnei</i>	1
計		99

(2004年10月1日～ 2007年5月27日)

人への感染防御対策

- ペットとして猿は飼育しない。
- 猿の導入時には検疫を実施する。
(検疫所では30日間の繋留, 検査)
- 猿の取扱者は手袋, マスクを着用し, 衛生教育を行う。
- 感染個体の隔離と治療を行う。
- 消毒の徹底(衣服, 器具, 器材, ケージなど)。
- 群の定期的な検査をする(無症状保菌猿の摘発)。
- 猿の取扱者の検査をする。
- ハエ, ネズミなどの進入防止措置をとる。